



# 東京多摩プロバスニュース

第 57 号

■事務局: 〒206-0034 東京都多摩市鶴牧 5-29-10 平田方 ■編集・発行: 広報委員会 2014. 11. 5.

■電話・FAX (042) 338-7022 ■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

## 多摩の地域文化を育てよう

### 第 123 回 定例会

日 時 : 平成 26 年 9 月 3 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 : 関戸公民館第 2 学習室

出席者 : 30 名(会員数 37 名)

### 第 124 回 定例会

日 時 : 平成 26 年 10 月 1 日(水)午前 12 時 30 分より

場 所 : 旭館総本店聖蹟桜ヶ丘

出席者 : 28 名(会員数 37 名)

### 理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする

### ◇◇◇ ごあいさつ ◇◇◇

#### 国民の祝日「山の日」制定に思う 幹事 西村政晃

私は、鳥取県の伯耆富士と呼ばれる大山(だいせん、1,711m)の山麓に生まれました。朝な夕なに大山の雄姿を眺めて育ち、中学3年の夏には大山北壁で岩登りを始めました。

その後大学に進み、6年間山岳部で過ごしました。社会人になってから多摩ニュータウンに40年近く住み、奥秩父、高尾、丹沢、奥多摩、奥武蔵と、低いながらも美しい山々に親しんできました。

そんな山に縁の深い私に今年はいよいよいいことがありました。今年の国会で8月11日が「山の日」として国民の祝日に決定されたのです。

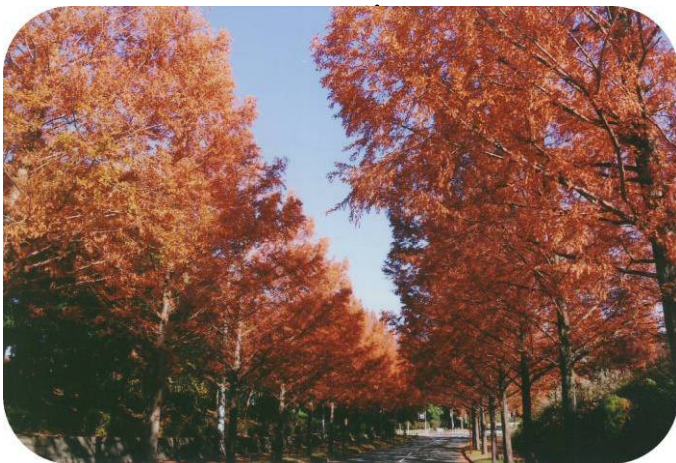
これまで海と山の恵まれたわが国で、7月に「海の日」があるのに「山の日」が無いのはいかなものか、と議論があつたりしました。そこで5年前に私の所属する公益社団法人日本山岳会が呼びかけて全国で活動している山岳5団体で「山の日」制定協議会を発足し、国民の祝日「山の日」制定にむけて活動を始めました。

たまたま3年前に日本山岳会の副会長に就任した私が日本山岳会の推進役を務める

ことになり、「山の日」啓蒙のパンフレットづくり、谷垣衆議院議員・作曲家の船村徹先生等を交えたシンポジュームの開催、高尾山での「山の日」ピラ配りなどをみんなで精力的に行いました。

昨年4月には前記谷垣先生ほか与野党の国会議員に超党派の「山の日」制定議員連盟をつくっていただき、先生方の強力な活動によって4月衆議院、5月参議院と、祝日法の改正案が決定されました。

改正祝日法の施行は翌々年の1月1日なので、平成28年8月11日が1回目の「山の日」となります。楽しみです。



黄葉した壮麗なメタセコイア並木(多摩市鶴牧メタセコイア通り)

1. 幹事報告

西村政晃幹事

1.1. 平成26年度行事予定表

9月3日定例会に総会・理事会・定例会・会報発行などの年間予定表を配布。

1.2. 全日本プロバス協議会総会(11月23日)

9月末現在当クラブから12名参加予定。

1.3. 東京多摩ロータリークラブ主催「第10回多摩市中学生俳句大会」

当クラブの俳句サークル「研句会」が10月3日10日に一次選考を行なった。

2. 委員会報告

2.1. 総務委員会

倉賀野武士委員長

1) 総務委員会の構成

青木ひとみ新会員を迎え総勢9名で運営、全員集まるのが難しいので連絡網を活用している。



総務委員会の皆さん

2) 9月度定例会(9月3日)

卓話: 高村弘毅会員による「多摩丘陵の水環境について」のテーマで実施。 関連記事P3 参照

3) 10月度定例会(10月1日)

旭館総本店聖蹟桜ヶ丘で開催、昼食会と定例会議事に引続き、座談会を出席者27名が2グループに分かれて行った。「プロバスライフを楽しむには」のテーマで、堅苦しくなく和やかな雰囲気、皆さんからの貴重なご意見・要望を伺ったので今後の活動に生かしたい。 関連記事P3 参照

2.2. 研修・親睦委員会

鈴木達夫委員長

1) 三鷹の森ジブリ美術館見学と井の頭公園の散策

9月17日(水)に19名が参加、奇抜な建物、趣向を凝らした展示物を見学し、井の頭自然文化園を散策した。予定の山本有三記念館は休館日でした。 関連記事P4 参照

2) 多摩六都科学館(プラネタリウム)の見学会

11月12日(水)で16名が参加予定。

3) 近隣プロバスクラブの交流ゴルフコンペ開催

10月23日(木)に第4回近隣(八王子・日野・多摩)プロバスクラブ交流ゴルフコンペを相武カントリークラブで開催予定であったが、降雨のため中止とした。

2.3. 地域奉仕委員会

森川静子委員長

1) 「多摩プロバスかるた」の普及活動

①多摩市社会福祉協議会地域推進課・ボランティアセンターへPRした(9月22日)。その結果、「ふれあいいきいきサロン通信」と「ボランティア通信」の10月号に「多摩プロ

バスかるた」の紹介記事が掲載された。

②多摩市児童青少年課を訪ね、児童館と学童クラブにかかるたを寄贈し活用を依頼した(10月9日)。

③地域コミュニティセンターのトムハウスが秋祭りの行事の一つとして郷土かるたの展示を行った際、プロバスかるたも現物と絵札の原画を展示していただいた。

④日本郷土かるた協会にかかるたを寄贈した。

2.4. 広報委員会

稲田興委員長

1) プロバスニュース第57号編集概要を説明(9/24&10/1)し、原稿執筆依頼後、10月24日29日の編集会議を以って最終校正を行い、11月5日(水)定例会に発行配布予定。

2) ホームページは、プロバスニュース第56号の内容や、その他を反映させて、9月18日(木)に更新公開した。

3) 文書規定に則り、5&10周年記念誌等の資料を電子ファイル化し、事務局に一括移管した。



10月1日開催の  
楽しく和やかな  
雰囲気の良い昼食会

◇◇◇ 3分間スピーチの要約 ◇◇◇

定例会の活性化のために、会員の得意分野や趣味などをスピーチいただいた要約を報告する。

「江戸しぐさ」の3分間スピーチ 滝川道子会員

江戸しぐさには、自然と共生し円滑な人間関係を保つために、江戸商人リーダー達の惻隱の情(思いやりの心)から生まれた実践哲学です。江戸の商人たちが築き上げてきた知恵でありセンスです。江戸しぐさは(人にして気持ちがいい、してもらって気持ちがいい、はたの目にも気持ちいい)振舞いです。

定例会で3分間の時間をいただいて少しでも皆様に理解実践していただければとの想いでお話をします。

1回目(8月6日)は、「時泥棒」;江戸ではいきなり訪ねて来て相手の時間を奪う行為を「時泥棒」と呼び無礼とされていました。現代でも携帯電話で「今話してもいいですか?」と聞くのはマナーです。江戸っ子の本質の一つです。

2回目(9月3日)は、「三脱の教え」;江戸では初対面の人に「年齢」「勤め先」「身分」を聞かないことがマナーとされ、「三脱の教え」と呼んでいました。それは先入観を持たず、誰にでも平等に接するためです。

「傍を楽にする」;江戸の人は自分の仕事と同じくらいに、町や人のために働きました。いわゆるボランティア活動です。その人の評価にもなっていたとか。江戸は遠い昔のようですが全て現代に当てはまる言葉ばかりです。



**多摩丘陵の水環境について—大栗川流域のニュー  
タウン開発以前の地勢—**

**高村弘毅会員**

今年4月に「水循環基本法」が漸く国会を通り、水資源が国家単位で管理される見通しがつきました。水資源の管理は流域単位で施行するのが最も適切であろう。今日は地元大栗川流域について、表題の視点から皆さんと一緒に考えてみたい。



大栗川は標高 213.4m の御殿峠付近を源にして関戸付近で多摩川に合流するまで全長 14km であるが、ここで紹介するのは宝蔵橋までの延長 12.5km、面積 26.1km<sup>2</sup>、流域高度差僅か 160m の流域における水文(すいもん)環境、特に地下水に関するお話である。流域の水文環境に影響するのは、地形・地質・植生・土地利用状況・降雨強度などの要素である。本流域の地形は、流域平均幅 2.1km、流域平均起伏比 0.013 である。地質は、丘陵の基盤である第三紀系の三浦層群(被圧地下水や自噴井の地下水を含む)は北西から南東に向かって僅かに単斜傾斜している。流域の地質は上流部で、大谷部泥岩を最下位に、平山砂層、三沢泥岩層、連光寺互層が順に重なり、その上部を平坦に切る形氷河性堆石物ではないかと呼称してい

る御殿峠礫層が発達し、これを火山灰の多層ローム層、立川ローム層が覆う。流域に降った雨はこれらの地層を通して浅い地下水や深い地下水となり、あるいは地形と土地利用の影響を受けながら河川流出となり、蒸発散となる。低地部の完新世沖積層と更新世洪積層には豊富な地下水が貯留されていることから、開発前(宅地面積:9%)は開放井戸や掘削井戸によって農業用水や生活用水に利用されていた。また、約 100m 以深の被圧された自噴井は動力用水の必要がなく、営農者・養魚者・酪農者などにとっては有益な環境にあった。しかし、化学肥料施肥、家畜糞尿流出、家庭排水などによる大栗川の水質汚濁は極限に達していた。ニュータウン開発(宅地面積:42%、道路面積:19%)は流域の水循環を脆弱化させた(人工の水循環による都市型流出などが、一方で、上下水道の整備がなされたために河川水質(COD、BODとも基準値前後)は改善された。以上本記述では、水質の計測値は省略しました。



図表を使って説明する筆者

**「プロバスクラブライフを楽しむには」**

**倉賀野武士総務委員長**

創立 10 周年記念事業を無事終了し、11 年目を迎えるに当たり、今後どう活性化させていくかについて、10月1日(水)の第 124 回定例会に 2 グループに分かれて気楽に話し合いをした。

**1. 活動を一層充実しよう**

- ☆プロバスクラブの知名度をもっと上げる工夫が必要
- ☆月一回の定例会に加えてもう一回集まりをもってはどうか(会場確保、運営の問題もあるが……)
- ☆卓話・講話の講師には、肩書や名前にとらわれず幅広い分野からの人選を希望。質問時間を十分に。(気象予報士の村山貢司氏の講話は有意義であった。)

☆多彩な人材を活用して NPO 法人を創り、老人支援をしたらどうか。

☆単なる奉仕活動でなく会員の経験を活かし、多摩市のために何がで



座談会中の皆さん

きるか検討する。

☆市内の桜や街路樹などの美しい景観を写真にして PR したらどうか。

**2. 定例会の活性化**

- ☆やや形式化しており、報告事項はメリハリをつけて簡略し、卓話・講話の時間を十分に取りたい。
- ☆定例会に出席し黙って帰るのはもったいない。3 分間スピーチ、誕生日一言スピーチは良い企画である。

**3. 研修・親睦の見学**

☆普段行けない所へ行けて毎回楽しみ。前回の三鷹の森ジブリ美術館も大変良かった。「多摩プロバスかるた」に描かれた地点を巡るウォーキングをしてみたい。

**4. サークル活動**

- ☆麻雀・囲碁・将棋・トランプなど小さなサークルを創り、一つの部屋で複数の活動をやってもいいのでは。歌う会・ゴルフ・俳句の俳句会などは盛会。
- ☆サークルのスクラップ&ビルド、リーダーの交代をすればよい。釣りサークルは岡野一馬会員が近々はずりを実施するとのこと。

第 1 グループ座長：西村政晃、書記：上田清

第 2 グループ座長：倉賀野武士、書記：瀬尾日出男

「ワールドキャンパス多摩(WCT)」

—外国人青年 19 名が多摩市を訪問— 中村昭夫会員

WCT は毎年外国青年たちを一週間の滞在中で多摩市に引き、市内のボランティア宅にホームステイさせながら、学校や施設を訪問するほか、武道や茶道・書道・日本舞踊などの日本の伝統文化を体験させ、日本を体得して貰っている。

この企画は今年で8年目を迎え、通算 300 人を超える青年たちが来訪している。この活動には、多摩市・多摩市教育委員会・多摩市国際交流センター(TIC)・当東京多摩プロバスクラブが後援会員として協力している。なお当クラブの蓮池元会長がこの WCT 会長を 3 年間担当された。

今年は 10ヶ国 19 名の若者たちを受け入れ、市民との交流を行った。

TIC では 8 月 6 日に青年たちとの交流でいくつかの行事を行ったが、中でも「おむすび作り」が好評で、作ったおむすびは昼食代わりに食べて貰いました。



8 月 9 日が滞在最後の日。来訪メンバーの青年たち(上の写真)は、後援会員・ホームステイ先の家族・訪問校などの関係者を招いて「ありがとうイベント」を開催。彼らのダンスやスピーチなどで「大変お世話になって「ありがとう！」の気持ちを表現しました。

この日は当クラブからも山田会長以下数名の会員も出席。

「プロバスの木」

環境問題への貢献の一環として、東京都のマイツリー計画に参画してきた“東京多摩プロバスの木”が計 5 本となり、若木が育っております。

植栽場所・多摩市永山 2-16-24

鎌倉街道沿い(写真下)

樹種…サンシュユ 落葉小高木 (高さ 3m 程になる)

地域奉仕委員会



立て札 (多摩プロバスクラ

ブの銘を記してある)



鎌倉街道沿い街路樹「サンシュユ」の若木

「三鷹の森ジブリ美術館」見学に参加して

澤雄二会員

初秋、9 月 17 日(水)気象庁はその日低温情報を出していたが、歩くと少し汗ばむ様な穏やかな秋晴れに恵まれた。武蔵野の森の中に佇む美術館は、建物を見ただけで、決して若くない私達の気持を昂ぶらせてくれた。

工夫を凝らした各展示室は、期待を裏切らなかつた。緻密な検証と計算、豊かな発想、優れた技術等に裏付けされた宮崎ワールドを堪能させてくれた。「発想と予感、そして皆さんのスケッチとイメージの断片。その中から映画の核となるべきものが見えて来ます」と、作製者でもあった私の心に残った宮崎駿の言葉である。「いや来て良かったよ」「癒された」「若返った」と会員たちにも、それぞれ思惟を与えてくれたジブリであった。



ジブリ美術館前で

イタリアンのランチを楽しんだ後、井の頭公園の池の周りを散策、そして動物園へ。日本の最高齢の象の“花子”を見た時の或る女性の一言「皺が一杯あって可哀そうね、クリームをつけて上げたら良いのに……」「えっ?」。公園の一隅に、若かりし時の岡野一馬会員が設計した“資料館”が建っていた。ここでしばらく建設談義、これも多摩プロバスらしい思い出となった。

最後に「山本有三記念館の見学」……のはずだった。しかし祝日の翌々日は休館と言う特異日に当たった。前々日は“敬老の日”私達は文句も言えない。外部に展示してあった路傍の“石”に座ったり、もたれたりして全員で記念撮影。ちよっぴり悔しい思いを晴らした見学会でした。

「俳句サークル“俳句会”活動

増山敏夫会員

9 月 21 日に行われた「からまつ俳句会」平成 26 年度同人総会において、当俳句サークルから登坂会員 (爽風)、倉賀野会員(志水)のお二人が、からまつ俳句会の新同人として推挙され、同人会長より「おめでとうございます」との言葉をいただきました。このお二人を含め同人は都合 4 名となり、目覚ましい活動が続けられています。

毎月第二金曜日に句会を開催し、年に二度ほどある「からまつ俳句会」の今行にも参加している。



1. 第50回推薦名流舞踊大会

青木ひとみ会員

東京新聞社では、戦後舞踊コンクールや、女流名家舞踊大会などを開催し、古典芸能の発展と継承に寄与してきました。9月23日東京国立大劇場で開かれたこの大会は今年で50回目を数え、私(花柳橋弥)は26回目の参加。

今回の演目は「三番叟」でした。「三番叟」は能の翁を元にした祝儀物で、天下泰平、五穀豊穰、子孫繁栄をもたらす内容です。私が踊った「二人三番叟」



「二人三番叟」を踊る筆者(右)

は義太夫のリズミカルな曲によって豊作祈願の振りを踊るもので、重い衣裳を着て、飛んだり跳ねたりしなければならず、年齢的に体力が持つか心配でしたが、毎日稽古することで無事踊ることができました。今回の舞台で稽古の大切さを再認識し、常にチャレンジする精神を忘れず精進していきたいと思っています。

また、「多摩市古典芸能子ども教室」の子ども達も、立派に舞台を務めることができました。

これからも次の世代に、伝統文化を伝える努力を続けていきたいと思います。

2. 「Gin-Cha-Kai」

阪東熙子会員

毎年10月の最終日曜日、今年は26日に銀座一丁目柳通りの角から八丁目花椿通り角まで、いわゆる銀座通りの10数ヶ所に立札席を設け、伝統文化に触れ新しい銀座の創造につなげようと、2002年に誕生したのが「銀茶会」です。

当日は、三千家と江戸千家の各々の席主が趣向を凝らし、秋らしい名店の和菓子と共に一服差し上げております。和服姿のファンもおられ、通りすがりにお茶?と興味がわき、一期一会と入られる方もあります。(当日無料の茶券配布)

この会の素晴らしいのは、老舗の長と名のつく方々が揃いのブレザーで、遠巻きに見物している人々に気さくに呼びかけ、列の整理をなさるなど



和気藹々に満ちているところです。また、三越9階のテラスでは、建築家特別養成講座、学生グランプリで金銀賞に輝いた創作茶室が23日から27日まで展示され、斬新な若さあふれる和の空間でも点前をします。因みに、27日は武者小路千家が務めました。体験コーナーもあり、オータムギンザの風物詩となり好評です。

3. ちぎり絵と神谷真一会員

阪東熙子会員

(記) 始められた動機は?  
(神谷) 展示会場の受付の女性が可愛い人でね、誘われた乗りで、即入会したんだ。

(記) その方と今は?  
(神谷) 教室で会うよ。指導の女の先生、教材にオリジナルの高級な染め和紙を持ってこられ、これがきれいでね。

(記) なるほど、お仲間や先生との美意識が同じだから5年半も続いているわけね。ところで、今年のちぎり絵の賀状!(上図)ありがとう。黄葉林に囲まれ暫し逢瀬のシルエット。ロマンチストの貴方らしい構図、人物どうやってちぎるの?

(神谷) 先ず鉄筆で縁取りをして、少しずつちぎるの。難しいよ。

(記) 女性にハグする男性の線に情の深さが出ているのは、お得意のアルゼンチンタンゴのスタイルね。

(神谷) 風景は重ねて貼り付けることで遠近をつけ、思い通りの色合いができた時は嬉しいよ。

(記) 奥様は何て?

(神谷) あなた、そういうセンスがあったのねと言ってる。

(記) マァ惚れ直させたというわけ、ラブラブね。

以上は神谷会員が、9月4~9日の間、京王デパート桜ヶ丘店のギャラリーで開催された「ちぎり絵展」に出品されたのを機に、定例会後の懇親会会場の喧噪の中(記) 阪東がインタビューしたものです。



4. 「2014 第16回永山フェスティバル」に出演

中村昭夫会員

多摩市永山公民館主催で開催された軽音楽祭「永山フェスティバル」は今年で第16回を迎え、9月22・23日の2日間で行われた。



タマピカルの演奏(左から二人目が筆者)

会場は永山駅前のステージ、グリナード広場、バルブ永山等5ヶ所で、ジャズ、ロック・ポップス、フォークなどのアマチュアバンド約80組が出演した。私のポップスバンド「タマピカル」と男声カルテット「多摩ダンディーズ」も今年で5年連続の出演であった。ダンディーズは出場最年長グループ、タマピカルもバンドグループの中ではかなりの年長グループであったが、どちらもポピュラー曲を演奏の主体にしたため、聴衆の方々に馴染みの曲目でもあり、比較的好評を博すことができた。



### 「幼少期の多摩と私」

私は今から63年前、昭和26年に多摩村下落合に生まれました。父はその当時では珍しいサラリーマンでしたが先祖が提灯を作っていたとのことで、私の家は屋号で「提灯屋」と呼ばれていました。母は多摩村の東寺方から嫁いできたので私は純粋なる「多摩っ子」と言えると思います。

### 森川静子会員



私が生まれた昭和20年代から30年代の多摩はまだ多摩ニュータウンもできておらず、小高い山の谷間に田畑が広がる農村地帯でした。夏の夜はカエルの合唱が始まり、蛍が飛び交いのどかな風景がそこにはありました。

幼少の頃は現在のようにガス・水道はなくどの家も暖をとるには囲炉裏、そして湯たんぽ、また水は井戸水を汲んで生活していました。でも、私の家には井戸はなく山の湧き水を竹の樋を伝わせコンクリートで作った溜に水を溜め使っていました。

夏になるとその溜はスイカ・トマト・キュウリを浮かせ天然の冷蔵庫としても活躍していました。

風呂はヒノキの楕円形の風呂で後に石炭にかわりましたが、薪で湯を沸かしていました。薪はすぐには火がつかないため新聞紙と焚き木をくべそのあと薪をくべました。

また、ごはんも「へっつい」というかまどで炊きました。「始めちよろちよろ中ぱっぱ赤子泣いても蓋とるな」と母から教えられ長女の私はよく飯炊き番をしたものです。

その当時、我が家では母が子供の教材費の足しにと内職をしていました。「メカエ」（目籠）という六角形の目のザルを作って売っていました。この郷土特産物は篠竹が採れなくなった現在、作っている人がいるかは定かではありません。

遊びといえば、兄に連れられよく乞田川に釣りに行きました。堰がありその上流で釣った記憶があります。釣れた魚は主にフナとハヤで家に帰り自宅の池に放しました。

川といえば家の近くに乞田川の水を引いて動く水車小屋がありました。その水車はいつも何かを挽いてコットンコットン音をたてていました。

交通手段は昭和30年代にバスが開通したものの、大部分の家は自転車を通勤、通学等に使っていました。

石ゴロゴロの砂利道での自転車こぎは大変だったと思いますが、自転車の後ろにリヤカーを取り付け畑で収穫した農産物と一緒に私はよく父に乗せてもらったものです。

<つづく>



今夏の厳しい酷暑と引き続き大型台風とその自然災害の大きさに、筆者は心身の不調に悩まされたが、萎えがちだった気力を今一度振りしぼり、一念発起、念願の御嶽登山を計画した次第である。その目的は、台風一過の好条件下でご来迎を狙い、引き続き王滝の登山道から御嶽山腹8〜9合目の絢爛たる紅葉群の撮影を狙いであった。

さて、問題の9月27日の早朝4時、前夜泊まった4合目のペンションを出発、7合目の田の原まで駆け上り、期待通り、18号台風明けの素晴らしいご来迎のスペクタクルを撮影し久しぶりに幸福感を満喫した。

このあと好天に恵まれ本番である8〜9合目の秋色美を求めて走り回ったが、残念ながら紅葉が未だ浅く撮影の登高を断念し、午前10時、未練があったが思い切って下山に踏み切った。この判断で2時間後の噴火という大惨禍から難を逃れることができたのは幸運としか言いようがない。下山後も我々は御嶽山が噴火し大惨事となったことを知らず、宿泊するホテルで始めて噴火のニュースを知らされ、驚き、また、ホテルの人々から幸運を祝福されたが、一方、下山の途中ですれ違つて御嶽山へ登っていった大勢のバス客や自家用車の人々の姿を思いだすと、まことに複雑な心境であった。その後3週間にわたる連日の大規模な搜索活動のニュースを見るにつけ、この度、図らずも授かった幸運の贈り物で、筆者に残された残り少ない幸運度を使い切ってしまったのではないかと懸念するこの頃である。

(広報委員 平田哲郎記)



### ハッピーバースデー



#### 1. 9月誕生日を迎えられました！



左から  
増山敏夫・鈴木達夫・秋山正仁・登坂征一郎・関根正敏の各会員

#### 2. 10月誕生日を迎えられました！



藤崎喬子会員と中村昭夫会員



#### 3. ハッピーバースディプレゼント

今年度からハッピーバースデーの趣向が変わりました。

まずは、誕生日を迎えた会員が一言ずつ感想を述べ、プレゼントは「多摩プロバスかるた」をあしらったカードに会員一人ひとりに会長心のこもったメッセージを添えて贈ることになりました(右上の写真)。